神保美佳のメモ★ランダム ――VOL.21

全てが一変した年の中で

MEMO★RANDOM

じんぼう・みか
法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。
取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」（バジリコ、07年）

当コラムを担当させて頂いてから、2回目の年末を迎えています。…はて、去年はどんなことを書いていたのだろう？

と思い、読み返してみたところ…。どうやら「仕分け」や「断捨離」といったものに影響されていたようで、身の回りの無駄排除をいろいろとレポートしていました。そんな心意気も、たった一年で忘れ去ってしまっているのが情けない限りですが、今年は東日本大震災という大きな出来事があったこともあり、私なりに2011年を振り返ってみたいと思います。

大震災以前、私が業界関係者の一人として大きな関心を寄せていたのが、2月に開催された「もっと楽しく!! もっと遊べる!! ぱちんこ＆パチスロフェスタ」でした。遊べるパチンコをテーマにした合同イベントは、2005～06年にも行われており、そちらは「既存の遊技機をメインに試してもらい、一般の意見を聞く」という、受け身的な趣向で進められて来ました。しかし、今年のイベントは「業界側が提案するコンセプト機を試してもらう」という、ある意味“攻め”に転じたものとなっていたので、これは何か期待できるぞ…。と、注目していたのです。

ところが、その成果を待たずして…3月11日、東日本大震災が起こってしまいました。

多くの方々が大津波で命を落としただけでなく、原発事故と放射性物質の大量漏洩も明らかになるなど、二次的、三次的な被害も次々押し寄せ、当時は毎日暗澹たる気持ちで過ごしていました。

特に電力供給の不足は、夏の節電対策にも大きな影響を与えました。遊技業界がバッシングを受けたりしながらも、7月～9月の間足並みを揃えて輪番休業を行ったことは、節電のみならずイメージアップという観点からも、大きな効果があったのではないでしょうか。同様に、震災直後から日遊協をはじめ多くの業界関係団体および個人が、被災地に足を運んで救援活動を行ったことも、意義があったと思います。

一方、8月よりホールイベント規制が本格化したことや、いわゆる「一物二価」問題が注目されるようになったのも、大きな出来事だったと思います。こうした動きによるダブルパンチ状態の厳しい状況が、さらなる業界縮小に追い討ちをかけなければいいのですが…。

2011年は一言で言えば「大震災を境に全てが一変してしまった年」でした。遊技業界にとっても、非常に辛い状況が続いているのは間違いありません。しかし、業界は目先の利益にとらわれ過ぎることなく、今一度ファンの方をしっかりと向いてほしいと思います。その一つとして、今年一歩を踏み出しかけた「コンセプト機」を、来年何とかニーズに応えられるような形にしていくことが、大切ではないかと思います。

そんな期待と希望を胸に…皆様、どうぞ良いお年をお迎え下さい。